



室蘭艦砲射撃から

七十九年

vol. 13

令和6/夏



立雲寺 だより



いのちに合掌



日蓮宗
Nichiren Shu

日蓮山



立雲寺



立正安国・お題目結縁運動
いのちに合掌

〒050-0086

北海道室蘭市大沢町 2-4-1

TEL (0143)44-4306

MAIL ritsuunji@gmail.com

立雲寺公式サイト



第

二次世界大戦（太平洋戦争）末期、室蘭市がアメリカ軍の艦砲射撃で大きな被害を受けてから今年で79年となります。

昭和20年（1945）7月15日、大規模な軍需工場があった室蘭市はアメリカ軍から艦砲射撃を受け、市民等400人以上が犠牲になり、被害に遭った家は1700戸近くありました。

艦砲射撃は約1時間にわたり、軍需工場だけでなく市街地や住宅街にも打ち込まれ、一瞬のうちには街は地獄と化しました。

立雲寺の近くにも砲弾は打ち込まれ、崖下の防空壕が崩れ多くの人が生き埋めになったり、被害は大きく沢山の人が亡くなりました。

立雲寺境内地（新しい永代供養墓の横）に「我此土安穩」と刻まれた石碑があります。

これは昭和24年（1949）東京大相撲一行の横綱照国が来蘭し、戦災死没者五周忌追善供養が行われた際、立雲寺の開山

上人の林舜祥が戦没者の慰霊のために建立したものです。石碑には法華経の一節「我此土安穩」（手を合わせる場所は安穩に変わる意）、横には「照国万歳」、下に照国の手形が刻まれています。

立雲寺には戦没者や戦時中に室蘭の工場等で働かされていた朝鮮や中国の人々等、沢山の方のご遺骨が持つてこられたそうです。

以来、戦時中や戦後の混乱の中この土地で亡くなってしまった方、供養が行き届いていない霊魂の為、毎日お勤めの際、ご回向しております。

戦後79年、私を含め戦争を知らない世代が、戦争という身近にあった恐ろしく悲しい出来事を知ること、話すこと、そして思いを寄せて手を合わせることは大切な事であると思います。

七月十三日（土）の十三日講は、室蘭艦砲射撃によって亡くなられた方へ供養を行います。ぜひご参拝いただき、戦没者の慰霊といたしましょう。

夏号もくじ

- 1 室蘭艦砲射撃から 79年
- 2 立雲寺お盆期間
- 3 行事報告（5.6月）
- 4 教室案内
学びの時間

令和6年
8.16（金）

- 13:00 永代供養祭
- 14:00 盂蘭盆法要
- 17:30 行脚開始
- 18:45 灯ろう流し

七月〜九月
予行
定事



おぼん

今年もお盆の季節がやってまいりました。
改めてお盆を迎える心構えを確認しましょう。

7月 13日 十三日講
(戦没者慰霊)

8月 1日
お盆棚経
12日

13日 お盆骨段経

16日 永代供養祭
孟蘭盆会法要
灯ろう流し

9月 13日 十三日講
(馬頭祭・ペット供養祭)

22日 秋彼岸法要

日 本人にとってお盆は古くから大切な行事の一つです。遠くに暮らしている家族が帰省して一緒にお参りをするというのが恒例行事という方も多いのではないのでしょうか。
お盆は孟蘭盆(うらぼん)といいますが、これはサンスクリット語の「ウランバーナ」が語源とされます。昔のインドで、雨季の安居の最終日に、僧侶が他の僧達に罪を指摘してもらって懺悔し、僧団が最も清らかになる自恣(じし)の日に、亡き親などへの追善を願って他の僧侶に盆器に盛った食事を施したというのが、お盆の由来です。
日本のお盆は先祖の精霊をお迎えして供養し、また送りかえす行事です。自分と家族、そして亡き先祖との繋がりを強く感じる日でもあります。亡き先祖にとっても、大切な家族に会える特別な日。普段忙しい方でも丁寧に準備をしてお迎えし、心を尽くして供養したいものです。

施餓鬼供養とは

立雲寺のお盆の法要では、先祖供養とともに施餓鬼供養を営みます。

施餓鬼とは、餓鬼道(足るところを知らない強欲な世界)に堕ちている精霊に施すということとです。「餓鬼に施す」というと、少し上から目線に聞こえますが、実はそうではありません。

餓鬼道に堕ちてしまった精霊を思い供養することで、餓鬼道の精霊を救うだけでなく、自分の心の中にも餓鬼が存在していることに気付かされます。

足るを知らない強欲で自己中心的な考え。これを仏教では「貪(むさぼ)りの心」といいます。この心が自分を苦しめる原因の一つとなるのです。

私たちは、生命の営みの中でいつも何かに支えられて生きています。それは目に見えるもの、目に見えないものどちらもです。それに気付き自身を省みることで、近づくことができるのではないのでしょうか。

塔婆・灯ろう供養



立雲寺では塔婆・灯ろう供養をととても大切にしております。塔婆は亡き方へ自分の供養の

気持ちを表す「手紙」です。

灯ろう流しはご先祖を心を込めてお送りする供養です。

亡き人、これまで命を紡いできてくれたご先祖様、ペットの為：自身の徳ともなります。

僧侶は皆さまの気持ちを届ける為、一本一本心を込めてお書きし、供養の志を捧げます。

また、自身の願いや志を書く自作の灯ろう「願い灯ろう」も随時受け付けております。ご希望の方はお申し付けください。

新盆を迎える方

命日 令和5年6月29日

〜 令和6年6月28日



亡くなってはじめて迎えるお盆を「新盆」「初盆」といいます。

まだ一周忌を迎えていない方を迎える初めてのお盆は特別な意味を持っています。

普段のお盆よりもお飾りやお供物、供花を豪華にしたり、故人のお好きだったものをお供えするのも良いです。亡くなってまもない故人へ特別なおもてなしをいたしましょう。

立雲寺では、8月16日のお盆施餓鬼法要にて、新盆の方の法名紙を御宝前にお祀りして供養致します。

初盆のご家族は、ぜひお参りください。

精霊棚

あくまでも一例です。各家によって様々な飾り方があるので、こちらはご参考までに。



- ①お供物（団子・菓子・果物等）②お霊供膳
- ③まこものゴザ④胡瓜の馬と茄子の牛
- ⑤水の子：胡瓜と茄子を細かくきざみ、洗米を混ぜたもの⑥水器：器に蓮の葉を敷き水を入れミソハギの葉を束ねて置く⑦青竹⑧ほおずき

お盆期間の流れ

- ① お棚経
8月1日～12日
地域ごとにご自宅にお伺いし、お仏壇にお経をおあげします。お仏壇を飾りお供えしご先祖様をお迎えいたしましょう。
- ② 納骨堂・お墓参り
8月13日～16日
納骨堂・お墓に供花・お供物を供えお参りしましょう。僧侶がお経をあげます。
- ③ 盂蘭盆会・施餓鬼法要
8月16日 14時～
立雲寺本堂にてご先祖様をはじめ全ての精霊に供養と感謝の気持ちを込め法要を行います。法要にて塔婆供養を致します。
- ④ 灯ろう流し
8月16日 18時45分頃～
立雲寺からイタンキ漁港まで行脚し、灯ろうを海に流し、ご先祖様はじめ全ての精霊をお送りします。



六月九日（日）に鬼子母神祭を厳修致しました。昨年同様に、周辺寺院の僧侶にご出仕いただき行いました。立雲寺の鬼子母神様、各家庭の鬼子母神様に益々の経力をいただき、年中特別祈願、取子祈願の方へのご祈禱を致しました。法要前のご法話は、夕張妙法寺の泉水寛道上人にしていただきました。今年よりコロナ禍以前のように、法要後に直会（お食事）をしました。やはり皆さままで顔を合わせて行事ができるのは良いですね。

鬼子母神祭



5月 13日 馬頭祭
6月 9日 鬼子母神祭

全国日蓮宗青年僧結集

五月二十九日・三十日の二日間、わたって、「全国日蓮宗青年層中部結集名古屋大会」が開催され、私光汰も参加してまいりました。毎年全国の青年僧が集まり行脚や法要をし、布教活動並びに研修、青年僧同士の親睦を深めるのが全国日蓮宗青年僧結集。昨年は日蓮宗総本山の身延山久遠寺での開催でした。第六十二回目となる今年は、歴代初の読経結集。約三百人の青年僧が名古屋に集まりました。一日目は法華経二十八巻全てを丸一日かけて読誦し全国各地の震災・戦災物故者の慰霊、二日目は法華経総要品を読誦し木剣加持（ご祈禱）を行い、世界平和祈願大法要を厳修しました。数年ぶりに親睦会も開催され、かつての修行仲間とも久々に交流でき、沢山の刺激をいただきました。



師

父の立祥上人から聞いた昔話です。

馬の世話をしながら働いている男がいました。馬小屋の中二階で寝泊まりしていたのですが、何しろ寝相が悪い。積んであった草の上に落ちてしまいました。それでも寝続けた男は目が覚めると、目の前に馬がいる。慌てた男は叫びました。「おかみさん大変だ！馬が二階まで上がってきました！」と。

また、最近の笑い(?)話。高速道路を逆走してしまったおじいさんに訊ねると「困ったものだ。一台や二台じゃやない。何十台、何百台も逆走していた」



今季の一冊

『法華経は「イエス」の教え』

道岡 日紀 著 / すすき出版



私が生まれた平成5年に出版された本。著者は日蓮宗僧侶の方。31年も前ですが今読んで面白い。タイトルも興味を唆られます。

読んでいるとまるで著者の方が目の前で法話をしているような感覚になっていました。

他宗教や思想家、歴史など様々な観点からみて法華経についての著者の解釈を述べていますが、難しくなくわかりやすい本です。(光汰)

学びの時間



第13回

「省みる心」

文・林永清

林永清 (はやし・えいしん) / 立雲寺副住職。令和3年5月より「立雲寺だより」にて一口法話「学びの時間」を連載開始。

と答えました。とかく私共は、自分の間違いに気付きにくいものです。ややもすれば自分は間違っていないと腹を立ててしまいます。仏教には日常の五心(素直・反省・謙虚・奉仕・感謝の五つの心)というものがあります。相手の立場に立ってみて、物を客観的に捉え、胸に手を当て、間違っていたならば素直に反省できるおらかな心を持ちたいものです。お盆も近くなってきました。ご先祖さまに思いを馳せ、おらかな気持ちで手を合わせましょう。

拜

春夏秋冬

永代供養墓へ行くスロープの所に芝桜を植えるべく、まずは土の整備から：ちよつと掘るとゴロゴロと石が出てきます。孫達が面白がって石拾いのお手伝いをしてくれました。そのうち違う遊びを始め、芝の上で寝転んで空を見上げたり、目を瞑ってみたり。今時の子供も自然と触れ合う事ができるんだなとホッとしました。自分達が手がけた花壇のせいかわ、お花の観察もしてくれて、経験する事の大切さも改めて実感しました。子供の頃ずーっと外で何を遊んでいたのだろう：とにかく外にいたなあ(笑) 恵

公文書写教室



<学べる教科>

- ペン習字
- かみかた
- 筆ペン
- 毛筆

【7・8月夏の1日トライアル実施中】
～1日のみの無料体験～

【9月の無料体験】

- 9 / 9・16・30 (月) 17:00～20:00
 - 9 / 10・17・24 (火) 14:00～19:00
- (この期間に最大3回体験可)

※体験希望の方は事前にお問い合わせ下さい。

講師 林香織 TEL 090-5079-0747

ご相談・ご要望は下記からも可能です

立雲寺では、日々様々な相談を受け付けております。電話での相談が難しい場合はメール、下記のSNS・ラインでも繋がります。

一人で悩まずまずはご連絡ください。またご意見ご要望があればお気軽にご連絡ください。

立雲寺 Instagram



RITSUUNJI

立雲寺LINE 公式アカウント



@183iejsa